

昨年84年ぶりに再発見された雪舟の作品

ほうかけいさんすいず 「倣夏珪山水図」東京で初の一般公開決定！

特別展「名作誕生—つながる日本美術」

東京国立博物館 2018年4月13日(金)～5月27日

このたび、東京国立博物館 平成館にて開催する特別展「名作誕生—つながる日本美術」(会期：2018年4月13日(金)～5月27日(日))に、室町時代に活躍した水墨画家、雪舟等楊(1420～1506?)の「倣夏珪山水図[ほうかけいさんすいず]」(山口県立美術館寄託)が出品されることになりました。1933年以降、所在不明だった幻の作品で、昨年84年ぶりに再発見され、改めて雪舟の真筆と確認されて話題となりました。東京での一般公開は、本展が初となります。

本展では、日本美術史上の巨匠、雪舟の作品9件を、【雪舟と中国】のつながりをテーマに、南宋時代の夏珪や玉澗などの作品とともに紹介します。



倣夏珪山水図[ほうかけいさんすいず] 雪舟等楊筆 室町時代・15世紀 山口県立美術館寄託
【展示期間：5月8日～27日】

新出の雪舟画「傲夏珪山水図」について

84年ぶりに姿を現した雪舟の山水画です。最後に人目に触れたのは、昭和8年10月に東京美術倶楽部で行われた、双軒庵・松本松蔵の旧蔵品の売立（オークション）。松本松蔵は、九州電気軌道（西日本鉄道の前身）の社長をつとめた人です。その後は秘蔵されて所在が知られなくなりましたが、昨年「再発見」されて話題となり、10月末から12月の初めまで、山口県立美術館の「雪舟発見！展」で展示されました。

墨の線で区切られた画面の、内側には「雪舟」、外側には「夏珪（圭）」と、二人の画家の名が書かれています。夏珪は中国・南宋時代の画院画家（宮廷画家）で、雪舟から見れば200年以上前の人です。なぜその名があるかということ、室町時代に最高の価値を持っていたのは中国絵画で、日本の画家たちも「夏珪風（夏珪様）で一枚」というように、著名な中国画家の画風で描くことを求められたから。この絵は、そのような需要に応じるためのメニューのようなものでした。同じ形式の絵が12点、江戸時代初期の狩野常信の模本で知られ、牧溪や梁楷など6人の中国画家の名が記されています。そのうち6点は雪舟の真筆が知られていましたが、この絵の再発見で7点目が確認されたこととなります。

しかし夏珪の絵と比べてみると、そっくりというわけではありません。水墨のみずみずしさを活かした夏珪の絵に対して、岩のかたちも梅の枝振りも力強く、色もきっちりと着けられて、かなり雪舟風のアレンジになっています。「古に倣い」ながら「新意を出す」——古典をアレンジしながらオリジナリティを獲得する——というの、画家たちの「古典とのつながり方」のひとつでした。この絵のようなプロセスを経て、「山水長巻」（毛利博物館蔵）や「秋冬山水図」（東京国立博物館）のような、夏珪風の代表作が生まれてゆくことになります。この小品は、そこへの道程を示すもの。模本では分からない雪舟のパワーを感じていただければと思います。

『國華』編輯委員 島尾新（学習院大学教授）

本展では「傲夏珪山水図」を含む雪舟の作品9件を展示します。 ※会期中、展示替えがあります。

[前期展示]

- 破墨山水図 東京国立博物館蔵
- ◎傲玉瀾山水図 岡山県立美術館蔵
- 潑墨山水図 東京・根津美術館蔵
- ◎潑墨山水図 大阪・正木美術館蔵
- ◎四季花鳥図屏風 京都国立博物館蔵

[後期展示]

- 天橋立図 京都国立博物館蔵
- 傲夏珪山水図 山口県立美術館寄託
- ◎四季山水図 東京・石橋財団ブリヂストン美術館蔵
- ◎四季山水図 東京国立博物館蔵
- 国宝 ◎重要文化財

創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年「名作誕生—つながる日本美術」開催概要

会 期：2018年4月13日（金）～5月27日（日）

前期展示＝4月13日～5月6日、後期展示＝5月8日～5月27日

開館時間：午前9時30分～午後5時 ※金曜・土曜は午後9時、日曜・祝日は午後6時まで

※入館は閉館の30分前まで

休 館 日：月曜日 ※ただし4月30日（月・休）は開館

観覧公式サイト：<http://meisaku2018.jp/>

お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）

特別展「名作誕生—つながる日本美術」は、「名作」や「巨匠」をテーマに、日本美術史上の名作たちを一堂に展示。名作がどのようなつながりで誕生したのか、また巨匠たちが何と（誰と）どのようにつながって名作を生んだのかを作品を通して明らかにし、時代や地域、ジャンルを超えた名作約130件をご紹介します。